

令和6年第4回（11月）掛川市議会定例会
代表質問発言順序

1 創世会 (15番 藤原正光 議員)

2 新しい風 (11番 藤澤恭子 議員)

3 日本共産党議員団 (12番 勝川志保子 議員)

4 共に創る掛川 (14番 鈴木久裕 議員)

5 市民派・公明倶楽部 (20番 山本行男 議員)

令和6年第4回（11月）掛川市議会定例会
代表質問発言順序（予定）

11/25(月) AM

創世会 (15番 藤原正光 議員)

新しい風 (11番 藤澤恭子 議員)

11/25(月) PM

日本共産党議員団 (12番 勝川志保子 議員)

共に創る掛川 (14番 鈴木久裕 議員)

市民派・公明倶楽部 (20番 山本行男 議員)

代表質問通告要旨

【会派名：創世会】

議席番号	15	氏名	藤原正光	質問の方式（一問一答・ <input checked="" type="checkbox"/> 一括）
------	----	----	------	---

1 未来を見据えた市政運営の展望と決意について（答弁：市長）

市長は4年前に、変化の激しい時代をチャンスと捉え、本市が次のステージに踏み出し、市民が生き生きと暮らせるまちをつくる決意で就任した。市政運営では「対話重視」「未来志向」「柔軟思考」の3つの政治姿勢で対応し、市民との対話を通じた協働、先進テクノロジーの活用、そして固定観念に捉われない柔軟な発想で、市政運営を進めてきたと思うが、以下の点について伺う。

- (1) 市長1期目の市政運営を総括し、その評価をどう捉えているのか伺う
- (2) 次期市長選に向け、進退の考えについて伺う
- (3) 令和7年は、市制20周年を迎えるが、当初課題の解決や市民の反応や評価について、ご自身はどのように捉えているのかを伺う
- (4) 今後、地域ごとのニーズや不均衡の是正に対する対応をどのように進め、一体感を図っていくのか、具体的な方針を伺う
- (5) 掛川城開門30周年記念式典の挨拶で、厳しい状況にある街中の活性化を図り、平時からの賑わいをつくる「掛川城を中核としたまちづくり」を宣言したが、その思いや考えを伺う

2 第3次掛川市総合計画に向けての行政経営の柱について（答弁：市長、教育長）

市政運営の指針として市民と共に考える次期総合計画には、目指す方向性を分かりやすく市民に伝え、各政策を連携し、好循環を生むことを期待している。策定に当たり行政評価や令和7年度の行政経営方針の柱を新たな総合計画につなげ、実効性を高める必要がある。まちの憲法ともいえる計画がまちづくりの道しるべとなるよう、以下を伺う。

- (1) 令和7年度は第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】の最終年度にあたるが、これまでの計画進捗状況をどのように総括し、第3次掛川市総合計画にどのようにつなげるのか見解を伺う
- (2) 掛川市財政の特徴の一つとして将来負担額が多いことが挙げられる。扶助費の増加、公共施設の建て替えといった課題が山積みの中で、将来負担を軽減しつつ必要なサービスを提供するために、これまでの評価と今後のバランスについて、見解を伺う
- (3) 本市の経済成長率の低さについて、どのような課題や影響があると分析して

いるのか見解を伺う

- (4) 経済成長を促進するために、どのような取組が必要と考えているのか見解を伺う
- (5) 今後、地域経済の活性化を目指していくうえで、本市として着眼すべき産業はどのようなものと考えているのか伺う
- (6) 災害対策による海岸線からの企業離れや南部地域、中山間地域の顕著な人口減少や高齢化の進展が著しい状況について、今後、いつからどのように、振興を図っていくのか、ロードマップを伺う
- (7) 地域公共交通政策において、数百か所の乗降場所を持つA I 配車システムを活用したデマンド型乗合タクシーを導入し、利便性の向上と市内全域の公平性を考えた政策を実行する考えはないか、見解を伺う
- (8) 市独自生成A I 活用の進化について、どの程度まで市政の意思決定に関与する可能性があると考えているのか、見解を伺う
- (9) 地域住民の声に迅速に応えながら業務を行うため、支所の在り方について再考すべき時期と考えるが、見解を伺う
- (10) 第3次掛川市総合計画策定に関して、市民ニーズに適したサービスの充実を図るために、ライフステージを柱とした年代に応じた政策体系が必要と考えるが、市長の所見を伺う

代表質問通告要旨

【会派名：新しい風】

議席番号	11	氏名	藤澤 恭子	質問の方式（一問一答・ <input checked="" type="checkbox"/> 一括）
------	----	----	-------	---

1 市政運営と掛川市の展望について

（答弁：市長）

市長の1期4年間のまとめの時期が来た。当初掲げたマニフェストに対する自身の評価とその総括、また、市長の思い描く今後の掛川市の具体的なビジョンはどのようなものか。今後も気候変動、エネルギー問題、人口減少等、山積する課題に取り組むには、ますます市民の協力が必要である。そのためにも市民には、市長のビジョンを的確に伝え、未来の掛川市のイメージを共有する必要があることから、以下について伺う。

- (1) 令和7年度、第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】の最終年度となるが、これまでの評価と改定の方針を伺う
- (2) 対話とチャレンジを掲げてきたが、その成果を伺う
- (3) 令和7年の市制20周年への具体的な計画やレガシーを伺う
- (4) 今後、学校再編計画や環境資源ギャラリーの建設等、大きな資金を必要とする事業が続くが、厳しい財政状況をどのように考えているか伺う
- (5) 掛川市をどのようにブランディングしていくのか、方向性を伺う
- (6) 市民活動や生涯学習、協働のまちづくりの重要性を再度認識し、市民活動の強化と積極的に中間支援を行うことが必要であるが、見解を伺う
- (7) 三の丸広場や松ヶ岡等を含めた掛川城周辺整備の方向性と、市長の思いを伺う
- (8) スマートICや南西郷地区の開発等、掛川市の発展への熱意と将来像を伺う
- (9) 海岸線地域ビジョンを具体化し、国道150号線の4車線化を、より活用した取組を伺う
- (10) 市民の足となる公共交通が、運転士不足等の危機を迎えている。自動運転実証実験や先進的な取組を行ってきた掛川市として、いつまでにどのような方向が示せるのか、見解を伺う
- (11) 人員不足の庁内において、人材、組織変革が急務である。さらなる人的資本経営を目指すべきと考えるが、展望を伺う
- (12) 令和5年度の組織編制において、1課2室5係が減少し、より効率化を図った成果と課題及び令和7年度以降の構想を伺う

2 心豊かにたくましく生きる子どもの育成の実現に向けて

（答弁：市長、教育長）

第2期掛川市教育振興基本計画「人づくり構想かけがわ」では「夢とところざしを持ち、ともに学び、豊かな未来を創造するひと」を基本目標に掲げている。しかし近年、子供や教員、学校を取り巻く環境は急激に変化し、目標達成のためには、より一層の多様な学びの保障が必要である。文部科学省の発表では、不登校の小中学生が令和5年度は前年度比15.9%増の34万6,482人に上り過去最多となり、11年連続で増加し5年間で倍増している。加えて、学校には通っているものの、例えばいじめなどに遭い、苦しみながら学校に通う苦登校も大きな問題である。小、中、高、特別支援学校におけるいじめの認知件数のうち、重大事態や暴力行為の発生件数も過去最多と明らかになった。また、発達や学習に支援が必要な児童生徒や、特別支援学級も10年で倍増していることから、子供たちの成長と取り巻く環境は、常に待ったなしである。心豊かにたくましく生きる子どもの育成の実現に向けての展望を伺う。

- (1) 令和7年度、教育大綱かけがわ及び第2期掛川市教育振興基本計画が最終年となるが、これまでの評価と改定の方針を伺う
- (2) 学校再編計画の令和6年度の取組状況を踏まえた、現状の課題と今後の展望を伺う
- (3) 不登校や行きしぶりの児童生徒の急激な増加に対して、教育長として今後どのように取り組んでいくのか伺う
- (4) 令和4年、日本政府は国連から「インクルーシブ教育の権利を保障すべき」と勧告されたが、掛川市の取組と方針を伺う
- (5) 支援を必要とする児童生徒の増加により、学級数の増加や支援員の確保が課題となってくるが、今後の対策を伺う
- (6) 学校再編によって閉校した小学校へ、インターナショナルスクールや通信制高校等の誘致を検討していく考えがないか伺う

代表質問通告要旨

【会派名：日本共産党議員団】

議席番号	12	氏名	勝川志保子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	-------	---

1 ジェンダー格差のない持続可能なまちづくりのために (答弁：市長、教育長)

若い女性の県外流出が多い静岡県だが、大きな要因に県のジェンダー格差が指摘されている。ジェンダー平等を根幹に据えた施策を進めることで、女性に選ばれるまちとなることは、誰もが住みやすいまちづくりにつながるとともに、持続可能なまちをつくる重要な視点になると考え、以下伺う。

- (1) 若い女性は、正規雇用を継続させ、産休や育休を取得しながら子育てを夫婦で担い、生涯を通して自分の能力を発揮できる仕事をする生き方を望む人が多いと考える。この希望がかなえられるまちとなるために必要な施策を伺う
- (2) やりがいのある仕事を求めて都会に流出することを食い止めるため、企業誘致などにつなげて、女性の自己実現が期待できる職場の創出を市として後押しできないか伺う
- (3) 市役所の雇用の在り方を、やりがいをもって仕事が継続できる魅力あるものに変え、女性に選ばれる職場に改善することは、担い手を確保し、市内全体のジェンダー格差解消も牽引すると考えるが、見解を伺う
- (4) 幼稚園、保育園の民営化により、安定した公務員としての保育士や幼児教育士の採用枠がなくなったことは、保育士不足に拍車をかける要因ともなった。専門職の公務員雇用の維持は今後も重要だと考えるが、見解を伺う
- (5) 男女共同参画による市政運営のため、立案や運用の場に女性の意見が反映できる仕組み作りが重要であると考え、現状と今後の施策を伺う
- (6) 自治区やまちづくり協議会、防災組織など、女性の参画が少ない組織において、男だから、女だからといった固定観念の払拭につながるような研修を積極的に行うことは、担い手不足の解消や組織の持続可能性にもつながると考えるが、見解を伺う

2 次世代にジェンダー格差を残さないための教育の在り方について

(答弁：市長、教育長)

ジェンダー平等はハード面だけでなく、ソフト面の意識改革が重要であり、学校や社会での教育の果たす意義は大きい。誰もが住みやすいまちづくりにはジェンダー平等の観点での教育が不可欠であると考え、以下伺う。

- (1) 静岡県は高等教育の機会均等にジェンダー格差の大きい県である。この解消

には、生涯を通して女性がやりたい仕事を続けることを前提に、差別なく教育が受けられる環境の整備が重要であると考えているが、見解を伺う

- (2) 性別に偏らず、全ての子どもたちに向けて包括的性教育を早い段階から行うことで、無意識の差別や偏見を払拭し、男女ともに生きやすい社会が展望できると考えるが、見解を伺う
- (3) 市民の意識変革には、多様な家庭の在り方を認めるジェンダー平等を根底に据えた家庭教育や社会教育が重要だと考えるが、市の施策を伺う

代表質問通告要旨

【会派名：共に創る掛川】

議席番号	14	氏名	鈴木久裕	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

1 この4年の市政運営の総括と今後について (答弁：市長)

久保田市政一期目も残すところ半年足らずとなった。今期の市政運営の総括と、今後の展望について伺う。

- (1) 市の活力増進や発展という観点において、どのような進展があり、どのような施策が寄与したと考えているか、市長の見解を伺う
- (2) 今期、まだ十分に実施できなかった、あるいはもう少し成果を出したかっただと考えている点はあるか、伺う
- (3) 次期に向けた姿勢について伺う

2 大規模事業を確実に実施していくための中長期計画の必要性について (答弁：市長)

小中一体校の建設や新しいごみ処理施設の建設をはじめとする、大規模施設の建設事業が予定されている。特に鳴り物入りの全市小中一体校化については、市内の教育環境を等しくする観点から、なるべく短期間の整備完了が望ましいが、未だに最初の原野谷中学校区すら着手できない状況である。これに限らず、行政は中長期的な計画を示さず場当たりに行政運営をしているようにも映り、市民の不信や無関心化を招いている。やるべき事業を計画的に実施していくためには、どこまで借金ができるか等、財政的観点も勘案しつつ、中長期的な年次計画を策定して広く示すことが不可欠だと思うが、考え方を伺う。

- (1) 中長期事業計画を立てていないことについて、計画行政という観点から見解を伺う
- (2) 小中一体校や新ごみ処理施設のほか、新東名（仮称）掛川倉真第2PAとスマートIC、都市計画道路掛川東環状線、南西郷開発、新生涯学習センター、いこいの広場野球場整備等、市の成長に必要な事業や市民から待望されている事業についても、市長の見解やある程度のスケジュール感を示していくべきではないかと思うが、見解を伺う

3 投票率の向上策について (答弁：市長、選挙管理委員会委員長)

先に行われた衆議院議員選挙における掛川市民の投票率は約61%、より身近であるはずの令和3年の市長、市議会議員選挙でも投票率は約65%であった。選挙は民主主義の根幹であり、適切な執行はもとより一人一人がきちんと投票することが大切であると考え、以下を伺う。

- (1) 選挙管理委員会では、近年の投票率をどのように考え、投票率向上のためにどのようなことをしてきたか伺う
- (2) 生涯学習宣言都市掛川市として、かつてのように「生涯投票率100%」をスローガンに、市長が先頭に立って投票率向上を呼びかけていくべきと思うが、見解を伺う
- (3) 投票後に希望者へ配布される「投票済証」について、他市町と比べ、特に近年安直な物になったと評判が悪い。「投票済証」に対する認識と改善について、見解を伺う

4 市議会からの政策提言の取扱いについて

(答弁：市長)

市議会が議会基本条例に基づいて行っている政策提言について、令和5年度末に行った提言に対する実施状況が10月の全員協議会で報告されたが、内容的に随分と軽々しく扱われているのではと感じられたため、以下を伺う。

- (1) 市議会としての政策提言であることから、その対応状況の報告にあたっては、少なくとも一般質問回答調整会議レベル以上の協議調整が行われたものであってしかるべきと思うが、実際はどうなっているのか。また現在の取扱いについて、市長の見解を伺う
- (2) 令和5年度以前に行われた政策提言について、特に「完了」、「実施済み」以外の「検討中」や「実施中」の物は、引き続きのフォローアップは行われているのか。行っているのであれば直近分と合わせて報告されるべきと考えるが、現状と見解を伺う

代表質問通告要旨

【会派名：市民派・公明倶楽部】

議席番号	20	氏名	山本行男	質問の方式（一問一答・一括）
------	----	----	------	----------------

1 市の危機管理について

（答弁：市長）

近年、自然災害への対応として、静岡県や掛川市からの要請や指示を受けた自衛隊や警察よりも早く災害現場に駆けつけ、被災状況の確認や応急復旧に対応しているのは、地元の建設関連企業である。

しかし、市内建設業組合への加入数は、経営問題や働き手の確保の問題で年々減少し、今年も組合から脱退する企業が数社あると聞いている。

災害時に市民の生命と財産、インフラ確保のために協力をいただいている建設関連企業からも、これ以上の減少が進めば災害時での対応が心配との声を聞くため、以下について伺う。

- (1) 建設業組合に加入している企業が年々減ることにより、災害対応や地区要望等への対応に苦慮している現状について、市長の見解を伺う
- (2) 災害復旧作業をする地元企業を持続的に確保するためには、日頃から人材を育てていく必要があると思うが、考えを伺う
- (3) 災害対応時に怪我をした場合、消防団は準公務員として保証されているが、建設業者の場合にはどのような対応になるか伺う
- (4) 能登半島地震でも活躍したトイレトレーラーは、県内では富士市、藤枝市、磐田市等が既に導入しているが、高額な費用がかかる。総務省消防庁の緊急防災・減災事業債を活用し、令和7年度予算に計上すべきと思うが、考えを伺う

2 富士見台霊園について

（答弁：市長）

お墓に関する実態調査によると、初めて調査を行った平成22年には約91%が購入していた一般墓が、核家族化や単身世帯の増加、地縁、血縁の希薄化等、様々な社会的背景を受け、令和6年度では21.8%になった。令和6年度の特徴は「跡継ぎ不要なお墓を購入した」という回答が64.1%で、令和5年度の41.4%より22.7%も増えている。

市民からは、市営の合葬墓を早く作ってほしいとの声があるため、以下について伺う。

- (1) 富士見台霊園の未使用区画の返還状況について伺う
- (2) 市営墓地13号墓域の進捗状況について伺う
- (3) 合葬墓の計画について伺う